

はじめに

当研究所は、平成9年5月、環境及び保健衛生に関する試験検査、調査研究等を行い、環境及び保健衛生に関する情報及び学習の場「まもる一む福岡」を設置することにより、公衆衛生の向上と環境の保全に寄与するため、前身の衛生試験所を拡充強化して設置されました。これらの業務を着実に実行することにより、一貫して保健・環境行政を科学的視点からサポートしてまいりました。

平成24年度は、社会的に求められている省エネルギーの取組みを研究施設においても徹底していく中で広範な調査研究に取り組んでまいりました。

環境科学部門では、社会的関心が高まっている大気中の微小粒子状物質（PM_{2.5}）の成分分析や発生源解析、特定外来生物のセアカゴケグモ生態調査などのほか、水環境中の有機化合物の実態調査などを行ってまいりました。

廃棄物部門では、処理施設の環境に関する試験検査や廃棄物の資源化に関する調査研究を行うとともに、施設周辺を含む環境の保全に向けた種々の課題解決に取り組んでおります。

微生物部門では、大きな流行となった風しんウイルスについて遺伝子解析を通じてその特徴や麻しんとの識別困難性に関する調査研究などを行うとともに、食品理化学部門では、国立医薬品食品衛生研究所との共同で有機水銀同時分析法の開発などを行い、食品に残留する農薬等の一日摂取量調査を継続的に行っています。

また、健康危機管理に関しては、「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」（地域保健法第4条第1項）を踏まえ、重要な役割を担う研究所として不断に検査技術の維持・向上を図るとともに、研究所間の連携を図りながら迅速かつ的確な検査体制のより一層の充実を進めているところです。

昨今、研究機関を取りまく環境は厳しい状況下にあります。今後とも環境・保健衛生に係る行政施策を科学的側面から支える福岡市の中核的試験研究機関として、市民の健康と生命を守り、安心して暮らせる環境を確保するため、職員一同、試験検査技術の研鑽に努めるとともに、市民により役立つ研究機関として情報発信を進め、その使命を果たしていく所存であります。

この所報は、平成24年度の当研究所の事業の概要と調査研究成果を広く活用していただくためとりまとめました。ご高覧いただき、皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚に存じます。

平成25年10月

福岡市保健環境研究所

所長 藤本 正典